

基礎ゼミ I 初めての登校 (1年生)

1年生の皆さんは、4月の本学の入学式も代表者のみ、授業もオンラインでのスタートでしたので、7月まで全く登校の機会がありませんでした。そこで緊急事態宣言が解除になったところで、7月1日基礎ゼミ I の授業を初めて対面で行いました。教員や学生同士も、直接顔を合わせての出会いはこの時が初めてでした。

不測の事態により例年とは違ったスタートではありましたが、これからの大学生活に前向きに、意欲を持って臨んで行けるよう精一杯支援をしていきたいと思ひます。



健康チェックをして受付



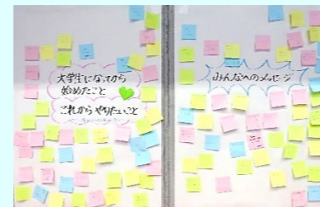
学長、学部長の話聞く学生

全体会の後は、それぞれのゼミにわかれての基礎ゼミになりました。オンラインとはいえ回数を重ねていたので、初対面という感覚はなく、自己紹介等の必要がないほどでした。

教授対策に登校している4年生からの「先輩の話」を聞いたゼミもあり、これからのキャンパスライフに見通しをもつことができたのではないかと思います。

大学生になってから始めたこと・やりたいこと

- 一人暮らしを始めた。
- ボランティアをしたい。
- 休まず通いたい。
- 料理を頑張っています。
- 資格を取りたい。
- アルバイトをしたい。
- 海外留学に行きたい。
- TOEIC750超え!
- 役に立つことをしたい。
- 旅行に行きたい。
- サークルに入りたい。
- 友だちをたくさん作りたい。



みんなへのメッセージ

- 4年間、一緒に頑張ろう。
- 人見知りですが仲よくしてください。
- みんな、仲よくしようぜ!
- 楽しいことを一緒にしよう。



共に集うことができた貴重なひとときでしたが、短い時間の中であつたので、壁に貼った模造紙に、今の思いを付箋に書いて貼ってもらいました。この思いが実現できる時を楽しみにしつつ、今の状況下でできることを一緒に考えていきたいと思ひます。

2020年度 松本大学 教育実践改善賞 実践論文募集

教育実践または地域の教育振興について論文を募集しています。多くの応募をお待ちしております。

- ◆ 募集期間: 10月10日~12月10日
- ◆ 賞: 賞状及び賞金8万円
- ◆ 応募方法: 指定の書式の論文を郵送をお願いします
- ◆ お問い合わせ: 教職センター事務室 Tel. 0263-48-7260

※ 詳細は松本大学ホームページ「教育研究情報」をご覧ください。



個別対応の「入試相談会」について

本学への進学を希望される方を対象とした入試相談を随時受け付けております。「入試への準備について」「面接対策」「大学生活への不安」「学費の確認」など、個別の不安や疑問にお答えいたします。是非ご相談ください。

- お問い合わせ・予約の時間帯 平日 9:00~17:00
- 電話でお申込みください。 Tel. 0263-48-7201 日時等ご相談させていただきます。

※ 詳細は松本大学ホームページ「入試情報サイト」をご覧ください。

2020年度 免許状更新講習について

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、今年度予定のすべての講習の開催を「中止」といたしました。何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

「教員になりたい」夢に向かって



教員採用試験に挑む1期生 ~教授対策講座(面接・実技指導)・個人練習~

1期生(4年生)の教員採用試験が終わりました。全国的に猛暑が続く中、まさに暑い夏を過ごしてきました。新型コロナウイルス感染症防止対策でキャンパスへの入構が制限される中、教員採用試験対策については入構許可申請提出の手続きを行い、健康チェックなどの諸規定を遵守しながら、対策講座や個別の試験勉強等の準備を進めてきました。

全力を尽くして臨んだ採用試験でした。結果が気になるころですが「教員になりたい」という目的を見失わず、後期の学修にもより一層力を入れていきたいものです。後期は、対面授業とオンライン授業の併用となります。人とのつながりが持ちにくかった半年でしたが、オンライン授業の利点も生かしながら、学生の大学生活がより充実したものになるよう支援してまいりたいと思ひます。

contents

- 住吉学長からのメッセージ p. 2
- 教員採用試験対策終了 p. 3
- 教育実習に向けての「模擬授業」 p. 3
- 基礎ゼミ I 初登校 p. 4
- 入試相談会等 お知らせ p. 4

退任される 住吉 廣行 学長 からのメッセージ

2017年4月の教育学部の開設は、住吉学長の強い思いがあってこその実現でした。学長の「地域社会の未来を創る」という開学からの一貫した教育ビジョンの下、教育学部においても地域と連携し「ひとづくり」としての教員養成を目指しています。このたび、住吉学長のご退任にあたり、教育学部へのメッセージをいただきました。学部全体で、託されたこの思いを引継いでいきたいと思っております。

未来を担う「ひとづくり」を目指して

松本大学 学長 住吉 廣行

中学生時代の、遠くて苦い思い出

中学生の時、担任の先生が出張で「住吉に任せる」と理科の授業を担当したことがありました。少し複雑な電気回路を扱う章でしたが、初の経験で力が入ったので、自分が疑問に思っていた細かな点が理解できたので、それを得意気に話した記憶があります。しかし、今考えると些末に拘り、「そうか」「分かった」と言ってもらえる、本質を衝いた授業からは程遠く、当然ながら力不足でした。

経験を積み、子どもの興味・関心を引き出せる授業を

皆さんは教員になったときに、子どもたちに「なぜ？どうして？」という興味や疑問を引き出し、「な～るほど、そうだったのか」と納得し、「面白かった」「明日も楽しみ」と言ってもらえるような授業で、勉強ギライや学校ギライを生まないようにしたい。教員一人一人や教員集団による探究を経た深い理解の獲得とともに、失敗から学ぶといった経験を多く積まないと、なかなか難しいとは思いますが。

多様な子どもへの対応には、教員の幅の広さが求められる

担当する児童の中には、将来はノーベル賞に輝く子、芸術・スポーツの分野などで吃驚するほどの才能を発揮する子もいるかも知れません。複雑な家庭事情、LGBT、外国籍など一人で悩んでいるような課題も多く且つ多様です。自分が理解できる枠内に押しとどめることなく、子どもの良いところを見抜きその可能性を伸ばす、逆に悪い点があればその背景にも心を配り、何気なく諭す余裕も必要です。そうした幅の広さも、大学時代の多彩な活動の中でこそ、身につくのではないかと思います。

教育学部・学校教育学科設立に託した思い

最近になり、先進国の宿命として、政府、財界等あちこちで、高等教育では「独創性」「主体性」の育成が重要課題だと指摘しています。こうした力は、にわか仕込みではなく、子どもの頃から自由な発想が許され、意見を出し合って何が正しいかを議論する習慣があつてはじめて涵養できるのだと思ひ、本学に初等教育を担う教員養成の教育学部が必要だと認識しました。皆さんに、その芽を膨らませる教育を期待したいと思います。

一人一人に寄り添った学びで確かな成長を

フィンランドでは、義務教育でも、納得できるレベルに達していないと生徒が判断すれば再履修(留年)できる制度があります。「他者との相対比較で遅れている」からでなく、「絶対に理解度が不足している」ことを重視するからでしょう。日本では他との比較で自分自身を見るのが多く、これでは安心できないときでも安心してしまふ恐れがあります。これに向き合うのに「教師の力量だけが頼り」では限界があります。今回のコロナ禍での経験から「教員の大幅増で少人数学級の実現を」との機運が盛り上がり、その意義も認識されてきています。

長野県下はもちろん、全国の教育現場で松大生ならではの力を発揮し、「時代をリードする教育を広めている」との評判が立つことを心待ちにしています。



最終講義 8月5日(水) 「地域社会と大学教育」

学ぶとは 誠実を胸にきざむこと
教えるとは ともに 希望を語ること
ルイ・アラゴン

水曜日1限の学長講義は、1年生にとって松本大学のことを知る貴重な時間であり、楽しみな時間でもありました。この日は対面での講義が実現し、しかも松本大学での住吉先生最後の講義の日となり、代表者より花束を贈呈させていただきました。

また、受講後の感想からは、住吉先生の熱い思いを受け、松大生としての誇りを持ち、4年間の大学生活や将来への夢や希望が膨らんだ様子が伺えました。

～受講後の感想より～

○ 住吉学長が創り上げてきた、この松本大学で学べることを常に誇りに思い、将来社会に貢献できる人間になれるように大学生活を過ごしていきたいと思ひます。

最後に対面で先生の強い思いをお聞きすることが出来て大変うれしかったです。ありがとうございました。

○ 学長としてたくさんのことを考えておられ、なかなかできないようなことをしていらっしゃるが毎回伝わってきました。先生を目指す身としては本当に憧れます。

○ 住吉先生が築き上げてくださった松本大学教育学部で、地元の方や先生方から支えられていることを自覚し、自分も支えることができる人になれるよう努力して学び、長野県の教員になりたいと思ひます。

1期生 教員採用試験 1次・2次試験終了

最善を尽くして 結果待ち 「教員になりたい」夢をかなえるために

教育学部では専門の先生の指導の下「教採対策講座」を開催してきました。筆記試験の解説、また面接や実技中心の講座等、できるだけ各自治体の試験内容に沿って企画してきました。その中で、学生は仲間と切磋琢磨し、共に「教員になりたい」気持ちを共有しながら励まし合って力をつけてきました。

中でも、体育実技では自宅での自粛生活が長かったためか、短時間で息切れ気味の学生もおり、事前準備の必要性を感じていました。その他、模擬授業や場面指導、音楽実技、英語のスピーチ指導等でも、それぞれ自分の課題を見出すことができ、大いにやる気つながつた様子を感じられました。



体育実技指導 準備運動

1次試験 受験報告会 開催

1次試験が終わった4年生から、3年生に向けてオンラインで受験報告会を実施しました。先駆者である1期生の受験体験談は、まだ自分事として考えにくい3年生への刺激となり、教採への意識づけへのきっかけとなりました。

10月には、合格者報告会も計画しています。

3年生向けの「教採対策」について

【今後の予定】

- ◆ 模擬試験 3回実施予定(12月、2月、来年度5月)
- ◆ 教採対策講座 木曜4限 特別講義 金曜3限
- ◆ 実技関係講座 2月頃～ 開講予定
- ◆ 模擬面接、小論文添削講座等

～4年生から後輩の皆さんへ～

- 教職教養の勉強は、できるだけ早くから計画的に取り組むべきと感じた。模擬試験結果から自分の課題をつかんで学習計画を立てるとよい。
- 対策講座や特講がとても有効。情報を得ることができ、毎回参加することで、自然に力がついてくる。
- 今までの大学での勉強がすべて役に立つということを実感した。毎日の授業に真剣に臨んでほしい。
- ボランティア等で子どもたちと関わる経験を多く積み、人間的にも成長して教員になる自覚を高めていくべき。

～3年生の感想より～

- 教員採用試験について知らないことが多く、自分の甘さを感じた。進路についてもっと真剣に考えて準備したい。
- これからどんな学修を積んでいくべきかがわかり、身が引き締まる思いだった。頑張りたい。
- 先輩のいない中での挑戦だったのに、自主的に学び合ってきた様子が分かった。経験したことをたくさん話していただきありがたかった。
- 機会があれば学外でのボランティア活動にも力を入れ、子どもたちと関わる体験をしていきたい。

いよいよ 教育実習開始(3、4年生)

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため「学校ボランティア活動」「学校インターンシップ」は中止といたしました。

「初等教育実習」「中等教育実習」「特別支援学校教育実習」につきましては、各学校と時期についてご相談の上、8月以降の実施とさせていただきます。



教育実習に向けて 模擬授業の様子



事後指導 授業の神髄はどこに

「模擬授業」で力をつけて

オンライン授業の中で、実習準備に不安を感じている学生のために、「教育実習事前・事後指導」の授業の一環で、「模擬授業」を実施しています。学生は指導案を書いて授業に臨み、児童役の学生や教員の前で45分間の授業を行います。予想していなかった児童の反応に戸惑ったり、板書が思うようにできなかったりと、授業は指導案通りにはいかないことを実感し、事後指導では悔し涙を流す場面もありました。

少しでも自信をもって授業に臨むことができるよう、引き続き指導をして送り出したいと思います。